

第45歩

勝賀城跡と鬼十河と新幹線

新年明けましておめでとうございます。今年の干支は甲辰(きのえたつ)。「龍の水を得る如し」との諺(ことわざ)に倣(なら)い、飛躍の年になることを祈っています。そんな年の最初のコラムは三題噺(さんだいばなし)風にまとめてみました。

昨年10月に開催された文化庁の文化審議会は、本市の勝賀城跡(かつがじょうあと)を国指定史跡にするよう答申しました。これにより、高松市内の国指定の史跡は特別史跡讃岐国分寺跡も入れて9件になります。全国の国指定史跡、特別史跡の数が1887件ですので、単純平均で1市町村あたり1.1ヶ所。高松市はその8倍強であり、数だけ見ても、本市は歴史の宝庫といって過言ではないでしょう。

勝賀城跡は、瀬戸内海、高松平野が一望できる勝賀山山頂に位置する中世山城で、この地を本拠として活躍した香西氏の牙城です。その中世戦国時代の高松には、西の香西氏と並んで、東部地域にも有力な武将が存在していました。それが十河(そごう)氏です。十河氏の詳細な活動は不明のようですが、隣の阿波の三好氏と結びつき、有力武将であった三好長慶(ながよし)の末弟である一存(かずまさ)を養子で迎え入れ、彼がのちに鬼十河(おにそごう)としてその猛将ぶりが恐れられたとの逸話が残っています。その十河氏の居城だったとされる地域では、新たなお祭りが行われています。昨年11月に開催された十河戦国お城まつりです。老若男女がそれぞれの手作り甲冑を身にまとい、戦国時代さながらに鉄砲隊演武や武者行列などが行われました。また、阿波三好家とのつながりから徳島県三好市の甲冑隊が参加していたのはもちろんのこと、十河氏繋がり、元国鉄総裁で、新幹線の父と呼ばれた愛媛県西条市出身の十河信二(そごうしんじ)さんをNHKの朝ドラで取り上げ、四国の新幹線を実現しようとする西条市役所の職員や、四国新幹線応援キャラクター「つながん」も加わり、多彩な賑やかさが演出されました。

本市には、史跡だけでなく、天然記念物や名勝、重要文化財といった文化財が数多くあります。それらを適切に保護しながら、地域の発展に活かし、後世に引き継いでいくことが肝要です。

